

ひろしま

歴史回廊

第8部・「芸備孝義伝」の世界①

「芸備孝義伝」という書物を「存したるうか。江戸時代後期に広島藩がまとめた領内の善行者の伝記集である。当時の為政者には、善い行いをした人物を表彰し、その伝記を出版して、領民に模範にしておわつてという発想が広くあった。」

■他藩より多い35冊

寛政の改革で知られる松平定信は、全国の善行者を網羅した本を作ろうと、善行で表彰された事例をもらさず報告せよ、との通達を諸藩に出した。各藩から上げられた報告をもとに幕府は「官刻孝義録」五十巻を享和元（一八〇一）年に刊行した。これを契機に広島藩が独自に編集したのが「芸備孝義伝」である。

他藩でも福岡藩「筑前孝子良民伝」五冊、岡山藩「備前

善行者の伝記集 庶民の暮らしも活写

孝子伝」十冊などが出版された。広島藩の「芸備孝義伝」は初編・二編・三編・拾遺合わせて三十五冊。八百三十人余りを紹介しており、他藩と比べて冊数も人数も飛びぬけて多い。

質的にも大変なもので、編集は頼春水、杏坪兄弟や金子霜山、加藤棕庵ら当代一流の儒学者を中心に行われた。それにもかかわらず、文章はいかめしい漢文ではなく平易な和文で書かれている。庶民にも内容をよく理解してもらえるようにという配慮である。

難しい漢字にはふりがなをつけ、要所々々には庶民の暮らしのひとこまを生き生きと描いた挿絵まで添えられている。挿絵を描いたのは岡唄山、太田午庵、山野峻峰斎という広島藩を代表する絵師である。

■配布し読み聞かせ

こうして完成した「芸備孝義伝」を広島藩は幕府に献上するとともに、領内の町年寄や割庄屋に配布して領民に読み聞かせさせた。希望者には販売もしている。そうやって

領民の教化を図ったわけである。

藩の意図とは別に、江戸時代の庶民の暮らしを文字だけでなくビジュアルにも知ることができ、格好の素材になっているのが「芸備孝義伝」である。

（広島市郷土資料館学芸員・村上宣昭）

土曜日に掲載します



備後国世羅郡上徳良村いち（「芸備孝義伝」初編巻七）の挿絵と本文。絵は岡唄山。さまざまな道具が描き込まれている。